甲府市議会「政友クラブ」視察研修報告書

報告者　末木　咲子
深沢　健吾
鮫田　光一

1．日程

令和4年5月10日（火）～5月12日（木）

2．視察先・内容

①高知県高知市　『高知市こどもまちづくり基金事業　こどもファンドについて』
②高知県香南市野市町　『高知県立のいち動物公園』
③高知県四万十市　『定住自立圏構想について』
④　〃　『しまんと観光道しるべ（観光振興計画）について』

3．参加者　9名

池谷　陸雄　原田　洋二　鈴木　篤　坂本　信康　長沼　達彦
小澤　浩　末木　咲子　深沢　健吾　鮫田　光一

【視察概要①】

①高知県高知市

（1）視察日程　5月10日（火）
（2）視察場所　高知市役所
（3）視察内容　『高知市こどもまちづくり基金事業　こどもファンドについて』
（4）対応者　高知市議会事務局　議事調査課　課長　井上　大　様
高知市市民協働部地域コミュニティ推進課　課長補佐　北村　洋平　様

1．こうちこどもファンド設立の経緯

まちづくりに対する市民ニーズの多様化、ボランティアや市民活動に参加する方が増加、NPOの活動の活発化、社会認識の高まり

↓

こどもファンドの元々の母体は公益信託高知市まちづくりファンド

↓

こどもが中心となったファンドの設立が地域を巻き込む大きな取組となる

↓

こどもファンド設立（平成23年4月）

2．こどもファンド(基金)の仕組み

市の直営、2,000 万円の積立、企業・市民から寄付を募る

特徴は、こども審査員（小学 3 年～高校生までの 13 人で構成　R3 年度）

3．こどもファンド制度の効果

①子ども中心としたまちづくり

②将来の高知市のまちづくりを担う人材の育成

③子どもにやさしいまち高知市の実現

4．応募資格

①子どもが 3 人以上

②大人が 2 人以上

③複数世帯の子どもで構成

5．応募から発表会までのスケジュール

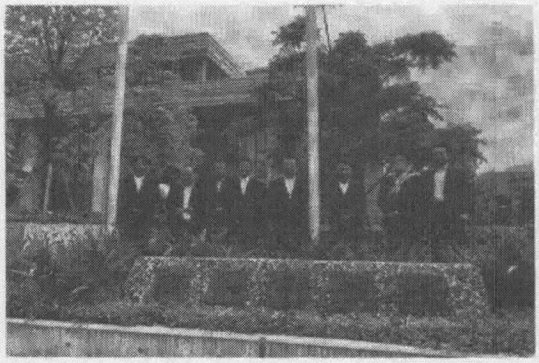
4 月から応募受付·

↓　（申請内容の審査）

7 月 1 日～2 月末までの活動

↓

3 月中旬　活動発表会



高知市役所にて

6．公開審査会について

こども審査員 14 人（小・中・高生）、大人審査員 7 人（学識経験者、まちづくり活動関係者、事業者など）の過半数が助成したいと判断されたものが助成対象となる

7．助成対象経費・対象外経費

（1）対象経費：２０万円（助成率１００％）

（2）対象外経費：人件費・家賃・光熱費・電話代・備品の購入費

［まとめ］

全国的に人口減少問題が重要な課題とされているが、地方都市においてはそれに加えて人口流出も大きな課題となっている。高知市においても例外でなく、若い世代に生まれ育った地域で安心して定住できるような環境づくりが求められ、推進を図っている。

こうした中、この「こどもファンド事業」は、大人たちが子どもたちの考える活動を応援し、支援することで、子どもたちが主体的に活動し、失敗や成功を体験しながら事業に取組み、やりがいや達成感といったものを実体験として感じることができる事業であると感じた。シビックプライドと言われる郷土愛を大切に思う心を醸成するためには、大変良い機会になっていると感じた。

「こどもファンド事業」は、子どもたちの未来への指針となると同時に、未来を担う人材育成に大いに寄与する事業であると評価も高いようだ。

本市においても、子ども未来応援条例を制定した中で、このような子どもの主体性を育んでいける事業はまだまだ少ないように感じる。この事業を参考にしながら、本市への郷土愛を育みながら、子どもたちの主体性を大切にする事業の考察が必要だと感じた。

【視察研修②】

②高知県香南市野市町

（1）視察日程　5月11日(水)

（2）視察場所　高知県立のいち動物公園

（3）対応者　公益財団法人高知県のいち動物公園協会　理事長　堀田　幸雄　様

高知県立のいち動物公園　園長　塚本　愛子　様

高知県立のいち動物公園　副園長　本田　祐介　様

1．高知県立のいち動物公園の概要

所在地：高知県香南市野市町大谷738番地

設立者：高知県

指定管理者：公益法人　高知県のいち動物公園協会

開園年月日：平成3年11月3日

面積：１９．９ha

飼育動物数：106種　1,492点（令和3年3月31日現在）

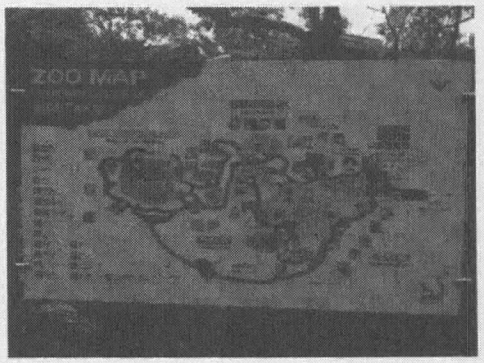
2．特徴

・動物たちの生息地帯に近い環境づくりがされ、温帯の森、熱帯の森など各エリアでは、のどかに暮らす動物たちが見られる

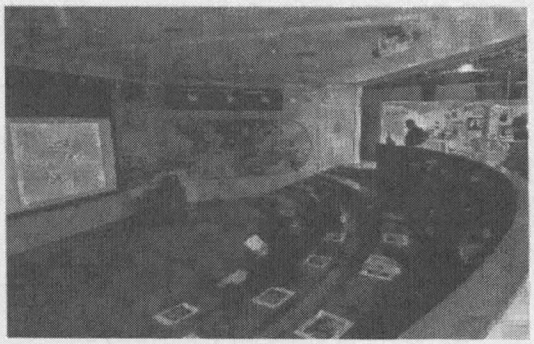
・「温帯の森」「熱帯の森」「アフリカ・オーストラリアゾーン」「ジャングルミュージアム」「こども動物園」の５つのエリアに分かれている

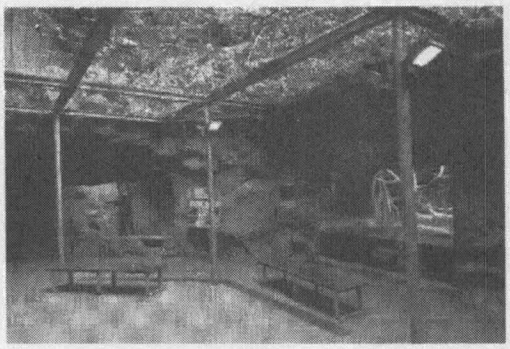
・世界中で旅行者に愛されている口コミサイト、トリップアンバサダーの「旅行好きが選ぶ！日本人に人気の動物園・水族館ランキング」で２年連続１位に選ばれた

・平成３年11月３日に開園し、昨年開園30周年を迎えた



動物公園内の様子





3．指定管理者としての理念

（1）人も動物もいきいきとする動物公園

①レクレーションの場としての使命・役割を最大限に発揮し、より多くの来園者を迎えます。

②種の保存に貢献します。

③自然保護の大切さを多くの方に伝えます。

④人と動物にやさしい管理運営を行います。

⑤地域や関係団体との連携に努めます。

（2）県民に信頼される協会

①人と動物に安全な管理運営を行います。

②危機管理体制を構築します。

③職員の専門性の向上などに取り組みます。

④経営収支の黒字を目指します。

4．来援された方々からいただいた「のいち動物公園の管理運営」に対する評価

トリップアドバイザーの「旅行好きが選ぶ！動物園ランキングで、2019年と2020年の2年連続全国1位に認定された

〈投稿コメント例〉

①園内の清掃が行き届いていて気持ちが良い

②緑が多く、檻や橋が少なく、動物たちがいきいきしている

③「日本一落ち着きのないハシビロコウ」の「ささ」がいる

④入園料が良心的で、子どもが無料はうれしい

⑤レストランがおいしい

〈日本の動物園ランキング2020トップ5〉

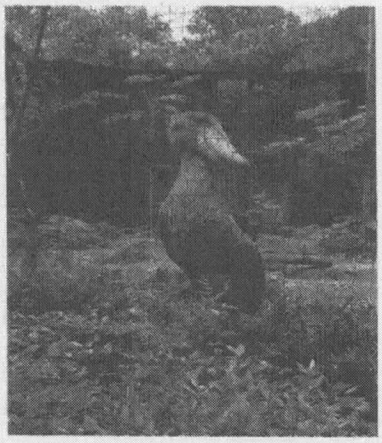
1位　高知県立のいち動物公園

2位　掛川花鳥園6

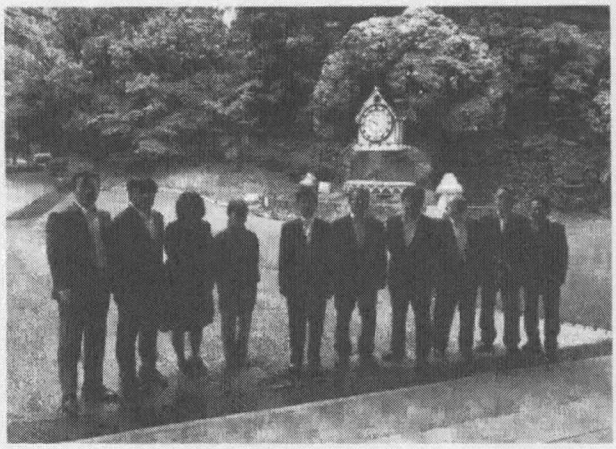
3位　アドベンチャーワールド

4位　那須どうぶつ大国

5位　旭山動物園



ハシビロコウの「ささ」



公園のシンボル「からくり時計」の前で

[まとめ]

高知県立のいち動物公園は、令和3年11月に開園30周年を迎え、開園以来「人も動物もいきいきと」を合言葉に、自然に近い形で動物たちの生息環境を再現した展示を行い、いきいきとした動物たちとふれあい、楽しみ、遊び、学べる動物公園として高い評価を受けている。令和2年12月には、来園者が500万人を突破し、全国からの来園者も多く訪れている人気の動物公園である。

約1400頭の動物たちがのどかに暮らす緑豊かな動物公園で、「温帯の森」「熱帯の森」「アフリカ・オーストラリアゾーン」「ジャングルミュージアム」「子ども動物園」の5つのゾーンに分類され、わかりやすく見学しやすい園内となっている。また、教育普及活動にも力をいれていて、「動物園の裏側探検」「サマースクール」「ふれあい教室」「出前講座」など、園児から高校生まで楽しめる教育プログラムを用意している。また、大学生・専門学校生を対象に飼育実習、獣医実習、博物館実習を行うなど、地域に根差し、学びの場としても親しまれている。

「旅行好きが選ぶ！日本人に人気の動物園・水族館ランキング」で2年連続1位を獲得している要因として感じた事は、園内の清掃がいき届いていることや従業員の対応の良さ、また、年間を通じて全ての世代に対応した様々なイベント・プログラムが用意されていること、ホームページやSNSなども充実していて動画配信の反響も大きいとのこと。

本市においても動物園のリニューアルを見据えた取組が進められているが、地域に密着し、誰からも愛される動物園となるよう、ハード面での限界はあるものの、ソフト面における充実を調査・研究していくことが重要だと感じた。

【視察研修③】

③高知県四万十市

（1）視察日程　5月11日（水）

（2）視察場所　四万十市役所

（3）視察内容　「定住自立圏構想について」

（4）対応者　四万十市企画広報課　課長補佐　遠近　由幸　様
　　四万十市企画広報課　企画調整係長　今城　烈　様

1．定住自立圏構想の意義

中心と近隣市町村が相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域全体として必要な生活機能等を確保する「定住自立圏構想」を推進し、地方圏における定住の受け皿を形成する

2．圏域に求められる役割

①生活機能強化（休日夜間診療所の運営、病児・病後児保育の実施、消費生活法律相談の実施　等）

②結びつきやネットワークの強化（デマンドバスの運行、滞在型・体験型・グリーンツーリズムの推進、地場産業の育成　等）

③圏域マネジメント能力の強化（合同研修の実施や職員の人事交流、外部専門家の招聘等）

3．定住自立圏に取組む市町村に対する支援

①特別交付税

・包括的財政措置（平成26年度・令和3年度に拡充）

中心市　4,000万円程度→8,500万円程度(H26)

近隣市町村　1,000万円→1,500万円(H26)→1,800万円(R3)

・外部人材の活用に要する経費に対する財政措置

・地域医療の確保に要する経費に対する財政措置　等

②地方債

地域活性化事業債を充当（充当率90%、交付税歳入率30%）

※医療・福祉、産業振興、公共交通の3分野に限る

③各省による支援策

地方公共交通の確保や教育環境の整備支援など、定住自立圏構想推進のための関係各省による事業の優先採択

4．中心市宣言までの取組の経緯

平成20年8月29日	定住自立圏構想の先行実施団体へ応募
平成20年10月28日	四万十市・宿毛市が複眼型中心市として先行実施団体に選定（全国20市　18圏域）
平成20年12月26日	「定住自立圏構想推進要綱」制定
平成21年4月7日	定住自立圏構想の推進に向けた国の支援措置等（通知）
平成21年4月27日	中心市宣言

5．第3次幡多地域定住自立圏共生ビジョンの具体的取組

①生活機能の強化

（1）医療

・地域連携クリニカルパス事業

・電子カルテ情報の公開

・高知県救急医療・広域災害情報システム　等

（2）産業振興

・ICTを活用した観光誘客事業

・観光資源活用・賑わい創出事業（全21事業）

（3）教育

・図書館システム管理運営事業

（4）教育・文化

・看護系４年制大学の誘致

②結びつきネットワークの強化

（1）地域公共交通

・生活バス路線運行維持費補助事業

・廃止路線代替バス等運行事業

③圏域マネジメント能力の強化

・合同職員研修・研究等事業

6．近隣市町村との連携による利点や課題等

（1）連携による主な利点

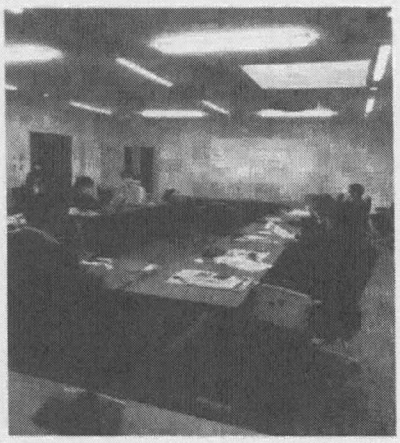
・圏域内での暮らしを守る地域医療や地域公共交通の維持・確保

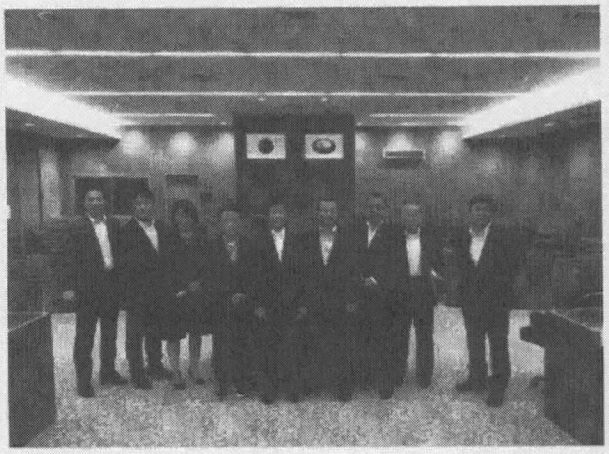
・スクールメリットを活かした広域的な産業振興

（2）連携による課題等

・広域連携の基盤・素地がない分野での新規事業立案が難しい

・中心市の事務負担





四万十市役所にて

7．事業実施による効果等について

（1）生活機能の強化

①医療

・地域連携クリニカルパス事業では、画像提供やカルテの閲覧により、転院後の二重検査不要による感謝の経済的・精神的負担が軽減や、医師による診療計画が立てやすくなるほか、医療スタッフの負担軽減にも寄与している

②産業振興

・圏域内の観光関係団体との連携により、圏域全体をフィールドにした滞在型・体験型観光推進に取り組み、観光を軸とした地域経済の発展と地域振興が図られている

③教育・文化

・図書館横断検索システムの定着により、オーテピア高知図書館からの借受が増加傾向にあり、遠方にいながら希望する書籍が借りられる環境整備につながった

・看護系4年制大学の開学に向け、共同での情報発信など圏域市町村間の連携が図られている

（2）結びつきやネットワークの強化

①地域公共交通

・圏域住民の足としての地域公共交通の維持・改善に努めるとともに、利用促進についても継続的に圏域内で協議・調整を行うなどの連携が図られている

（3）圏域マネジメント能力の強化

・幡多地域ふるさと応援隊等のネットワーク会議など、圏域での会合等において移住促進等に係る活動内容の共有、職員同士の交流が図られている

［まとめ］

幡多地域は、日本最後の清流と呼ばれる四万十川や豊富な原生林、足摺宇和海国立公園などの区域となっている足摺岬・大堂海岸など雄大な海岸景観と透明度の高い海など、「山・川・海（さんせいかい）」の豊かな自然環境に恵まれた地域である。

この幡多地域においても人口減少・高齢化社会に適応するための対応を迫られる中、幡多地域定住自立圏共生ビジョン」に基づき、圏域の将来像や関係市町村が連携して推進する具体的な取組を平成22年より推進してきた。

成果としてあげられるものは、医療体制の広域的なネットワークの構築や、公共交通の維持や支援事業、教育の分野における図書館横断検索システム導入など、住民が生活に欠かすことのできない分野において、大いに効果を発揮していると感じた。また、近隣市町村の職員との交流が頻繁に行われ、情報交換の場となっているようだ。

本市においても、連携中枢都市への推進を図る中、参考にできることを多く学ぶことができた。

【視察概要④】

④高知県四万十市

（1）視察日程　5月12日(木)

（2）視察場所　四万十市　学遊館　会議室

（3）視察内容　「しまんと観光道しるべ（観光振興計画）」

（4）対応者　　四万十市環境協会　会長　小松　昭二　様

[四万十市の自然と文化]

四万十市は、四国全長(196km)の大河である「四万十川」の中下流域に位置している。この四万十川には、多種多様で豊富な生き物が息づき、アユの火振漁、ウナギ、エビの柴づけ漁などの伝統漁法が今なお残っている。カヌーやキャンプ、海辺ではサーフィンなどのアクティビティも楽しむことができる。

また、「土佐の小京都中村」としても全国に知られ、今から550年前に土佐一條家のもと、清流四万十川と後川に囲まれた中村に、京都に模したまちづくりが進められたことに始まる。基盤目状の街並みや、祇園、京町、鴨川、東山などの地名、夏の終わりの十代地山では「大文字の送り火」が行われる。

四万十市は、四万十川に代表される魅力あふれる自然環境や小京都中村に息づく歴史と文化、山川海の豊かな幸を満喫することができる。

[沈下橋]

・洪水の際に橋が水中に「沈下」することを想定して造られている

・四万十川にかかる沈下橋は、本流に22本、支流に26本、合計48本

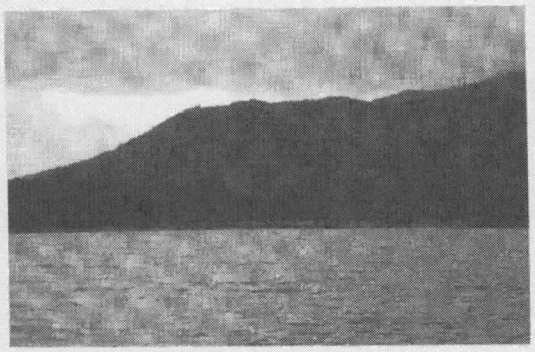
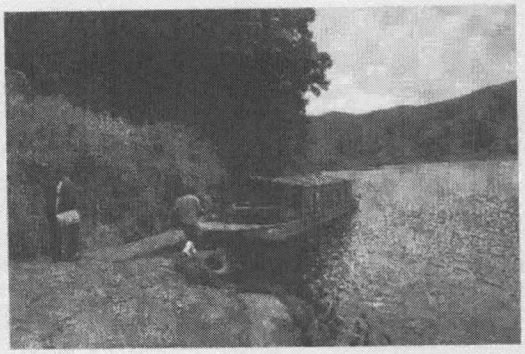
（半家の沈下橋、長生の沈下橋、岩間の沈下橋、勝間の沈下橋、高瀬の沈下橋　等）

1．しまんと観光道しるべ(観光振興計画)について

[策定の趣旨]

平成27年3月に将来都市像や施策の方向性を定める「四万十市総合計画」が策定され、この総合計画を最上位計画として、「四万十市まち・ひと・しごと総合戦略」「四万十市産業振興計画」が策定され、人口減少や地域経済の縮小を克服し、将来にわたって活力ある、魅力あふれる地域社会を創出するために取組んでいる。

これらの計画から、各産業分野と連携を促し相乗効果を生むために、裾野が広い観光分野を切り口として、本市の観光行政・観光振興の方針や取り組みなどをわかりやすく簡潔に取りまとめ、連携団体と共有し連携のもと推進するために新たに策定された。

四万十川の様子

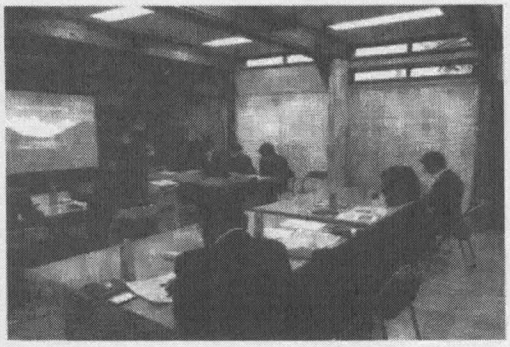
2．四万十市観光協会の事業（見える化）

・ホームページをわかりやすく作成し、観光スポットの紹介は勿論、観光スポットへの行き方、申込方法、サービスの動画などを一連の動画を作成し配信している。

3．総合計画　将来像　「人が輝き、夢が生まれる　悠久と飛躍のまち　四万十市

観光分野　目指す姿　「地域の誇りが人を誘う、おもてなしの”環光”地」

指標	基準（H25）	実績（R1）	実績（R2）	目標（R6）
観光入込客数	125 万人	119 万人	100 万人	130 万人
市内宿泊者数	21 万泊	24 万泊	18 万泊	25 万泊
外国人観光客数	1,341 人	3,473 人	461 人	8,000 人
外国人市内宿泊数	757 泊	7,977 泊	1,319 泊	



学遊館での視察研修

4．課題の整理と取組の方向性

［四万十市の強み］

・四万十川

・充実した自然体験・アクティビティ

・山川海の豊かな四万十の幸

・全国でも有数の飲食店舗数を誇る

・一條公からはじまる小京都中村の歴史と文化

［四万十市の課題］

・冬場が閑散期となる

・天候に左右されやすい

・大都市圏からの距離のハンデがある

・通過型の観光となっている

［今後の取組の方向性］

・観光客入込数の増

・宿泊者数の増

①通年型・滞在型観光の推進

・周遊観光の促進

・ナイトコンテンツの創生

・スポーツツーリズムの推進

②インバウンド観光の推進

5．観光振興の取り組み

（1）戦略１：観光商品の外商の推進

・「待ちの誘客」から「動く誘客」へ

・観光と食・物産などの一元的な情報発信と販売

（2）戦略２：滞在型の観光地づくり

・市場を意識した観光地資源の発掘・磨き上げ

・周年で滞在できる”環光”地づくり

（3）戦略３：おもてなしの向上

・観光地としての意識向上

・満足度とリピートにつなげるサービス

（4）戦略４：組織力の強化と観光リーダーの発掘・育成

・役割分担の明確化

・観光ボランティアの活用

（5）インバウンド観光の推進

・ガイドブック・観光案内版・メニュー等の多言語化

・外国人観光客受け入れ研修会の実施

（6）スポーツツーリズムの推進

・スポーツ合宿等を誘致し、交流人口の拡大による地域活性化を図る

・子どもたち向けの教室を開催することで、意欲の高揚や技術の向上を図り、スポーツ人口の拡大と健康の推進を図る

［まとめ］

四万十市は、四万十川周遊観光を中心とした観光都市である。観光協会の熱心な観光アナウンスによって令和元年には、国内・外国人観光客も大幅に増え、世界を対象とした観光地として認識されつつあった。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が大きな痛手となってしまった。

視察当日には、四万十市観光協会会長の小松会長から直接ご教授をいただき、小松会長の四万十市を愛する思い、観光事業に取組んできた熱い思いをお聞きする良い機会となった。やはり、「待ちの誘客」から「動く誘客」への強い思いで全ての事業に取組み確かな実績を積み重ねてきた自信を感じる講演であった。

また、ホームページにも力を入れていて、そこからイベントの詳細や予約、宿泊、交通手段に至るまで詳細に示されていて、観光を通じた各関係団体との連携も大きな強みとなっている。

四万十川は、四国内で最長の川で、本流に大規模なダムが建設されていないことから「日本最後の清流」と呼ばれている。この四万十川を中心とした自然豊かな観光資源を目当てに世界中から観光客が訪れることを期待したい。